

保育者養成施設における食物アレルギー教育の検討

渡辺香織、小野内初美、朴賢晶、有尾正子、西澤早紀子、
田村佳世、鋤柄悦子、安藤京子

愛知文教女子短期大学

【目的】

本学幼児教育学科では保育士、幼稚園教諭を養成している。平成 25 年度からは、保育所等における食物アレルギー対応について、調理を含めた演習により学修する必修専門科目「乳幼児食物アレルギー演習」を開講している。今回、この科目を含めた在学中の食物アレルギーに関する学修の成果とその活用、勤務する保育所・幼稚園等での食物アレルギー対応の実態を把握することで、保育者養成施設における食物アレルギー教育の在り方を検討した。

【方法】

「乳幼児食物アレルギー演習」を受講した卒業生 198 名を対象に、2017 年 4 月郵送で自記式アンケート調査を実施した。(回収率 33.8%)

【結果及び考察】

「在学中に学修した食物アレルギーの知識が役立っている」は 98.5%、食物アレルギーに関する専門用語の知識は、全ての語句で「在学中」に得たとの回答が最も多かった。在学中の食物アレルギー教育によって、卒業後に役立つ知識が得られていることが明らかとなった。勤務保育所等における緊急時の対応は「マニュアルはあるが役割分担は決まっていない」が 53.6%、他職種との連携は「重要だと思うが実行していない」が 28.6%であった。保育現場では、食物アレルギーに対応し、誤食を防止するためにも栄養士、調理員との連携が欠かせない。よって、今後はガイドラインに基づき、他職種と連携し、緊急時にも対応できる実践的な教育を行う必要がある。

第 18 回食物アレルギー研究会で発表